

最近の管内総合経済動向

平成29年11月9日
中部経済産業局

最近の管内の経済動向を見ると、

- ・ 生産は、増加の動きがみられる。
- ・ 個人消費は、緩やかに持ち直している。
- ・ 設備投資は、増加している。
- ・ 公共投資は、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 住宅投資は、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 輸出は、持ち直している。
- ・ 雇用は、労働需給が引き締まっている。

このように、管内の経済活動は、改善している。

先行きは、世界経済の下振れ、各国政策の不確実性の高まり、為替の動向、中小企業の経営環境の悪化などに注視が必要。各種政策の効果が生産や投資、所得の増加につながることを期待される。

<補足>

- 総括判断の「改善している」は、平成29年7月発表(上方修正)以来、5か月連続。

- 注) 1. 比較は、断りのあるものを除き、平成29年9月実績値による。
2. 「P」は、速報値。
3. 「管内」とは、富山、石川、岐阜、愛知及び三重の5県を指す。
4. 下線部は、先月から変更した判断。

(お問い合わせ先)

中部経済産業局 総務企画部 調査課長 出村

担当: 柴田

TEL: 052-951-2723 FAX: 052-950-1763

URL: <http://www.chubu.meti.go.jp/>

景況判断の推移

↑: 上方修正
→: 据え置き
↓: 下方修正

	公表年		2017年		2017年		2017年		2017年		2017年		2017年		
	公表月日		6月8日		7月10日		8月10日		9月12日		10月12日		11月9日		
	実績月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		
総括判断	緩やかに改善している	→	改善している	↑	改善している	→									
管内生産(総合)	堅調となっている	↑	堅調となっている	→	増加の動きがみられる	↑	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	
主要業種の生産動向	◎輸送機械	堅調となっている	↑	堅調となっている	→	増加の動きがみられる	↑	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→
	◎はん用・生産用・業務用機械	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに増加している	↑	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→
	◎電子部品・デバイス	横ばいとなっている	→	一部に増加の動きがみられる	↑	一部に増加の動きがみられる	→	一部に増加の動きがみられる	→	緩やかに増加している	↑	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→
	◎電気機械	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに増加している	↑	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→
	◎金属製品	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→
	◎鉄鋼	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→
	◎ファインセラミックス	緩やかに持ち直している	→	横ばいとなっている	↓	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→
	◎繊維・陶磁器	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→
消費・投資等の需要動向	◎個人消費	緩やかに持ち直している	↑	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→								
	◎設備投資	増加しているものの、伸びは鈍化している	→	増加している	↑	増加している	→	増加している	→	増加している	→	増加している	→	増加している	→
	◎公共投資	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	持ち直している	↑	持ち直している	→	おおむね横ばいとなっている	↓	おおむね横ばいとなっている	→	おおむね横ばいとなっている	→
	◎住宅投資	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	おおむね横ばいとなっている	↓	おおむね横ばいとなっている	→	おおむね横ばいとなっている	→
	◎輸出	持ち直している	↑	持ち直している	→	持ち直している	→								
	◎雇用	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→

1. 鉱工業生産・出荷・在庫

生産は、増加の動きがみられる。

i. 鉱工業生産・出荷・在庫の指数(速報)

鉱工業生産の動向を指数(9月速報)で見ると、電子部品・デバイス工業、化学工業、窯業・土石製品工業などが低下したことから、前月比▲1.6%と4か月ぶりの低下となった。また、前年同月比は+4.7%と8か月連続の上昇となった。

出荷は、電子部品・デバイス工業、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業などが低下したことから、前月比▲1.9%と4か月ぶりの低下となった。また、前年同月比は+2.8%と11か月連続の上昇となった。

在庫は、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業などが低下したことから、前月比▲1.7%と2か月ぶりの低下となった。また、前年同月比は▲12.6%と14か月連続の低下となった。

ii. 主要業種の動向

輸送機械の生産は、増加の動きがみられる。

乗用車は、海外向けが堅調であることに加え、国内向けに持ち直しの動きがみられることから、全体でも持ち直しの動きがみられる。

自動車部品は、国内完成車向けが横ばいとなっているものの、海外向けが増加していることから、全体としては緩やかに増加している。

航空機体部品・同付属品は、航空機用発動機部品に持ち直しの動きが見られることから、全体でも持ち直しの動きがみられる。

はん用・生産用・業務用機械の生産は、緩やかに増加している。

金属工作機械は、国内向けが横ばいとなっているものの、海外向けが増加していることから、全体としては緩やかに増加している。

繊維機械は、織機、紡績・準備機械ともに主力の中国をはじめアジア向けを中心に弱含みとなっている。

土木建設機械は、海外向けが堅調に推移しているものの、国内向けが横ばいとなっていることから、全体でも横ばいとなっている。

金型は、自動車向けを中心に増加の動きがみられる。

電子部品・デバイスの生産は、緩やかに増加している。

集積回路は、スマートフォン向けを中心に緩やかに増加している。

液晶素子は、スマートフォン向けを中心に緩やかに増加している。

電気機械の生産は、緩やかに増加している。

開閉制御装置・機器は、海外向けが増加していることに加え、国内自動車向けが緩やかに持ち直していることから、全体としては緩やかに増加している。

内燃機関電装品は、自動車向けを中心に緩やかに持ち直している。

電動機は、海外向けが好調なことに加え、国内向けが緩やかに持ち直していることから、全体でも緩やかに増加している。

金属製品の生産は、横ばいとなっている。

アルミニウム建材は、木造住宅向けやビル向けを中心に弱含みとなっている。

ばねは、自動車向けを中心に緩やかに持ち直している。

ガス機器は、新築や買換需要で堅調なことから、緩やかに持ち直している。

鉄鋼の生産は、緩やかに持ち直している。

鋼板は、自動車向けを中心に緩やかに持ち直している。

棒鋼・形鋼は、民間建築向けを中心に持ち直しの動きがみられる。

特殊鋼鋼材は、自動車向けを中心に緩やかに増加している。

ファインセラミックスの生産は、横ばいとなっている。

触媒担体・セラミックフィルタは、自動車向けを中心に、海外向けが堅調であるものの、国内向けが横ばいであることから、全体でも横ばいとなっている。

ガスセンサ素子は、自動車向けを中心に、海外向けは堅調であるものの、国内向けが横ばいであることから、全体でも横ばいとなっている。

繊維・陶磁器の生産

繊維は、化学合成繊維に弱い動きがみられることから、全体としては弱含みとなっている。

陶磁器は、タイルに弱い動きがみられることから、全体としては弱含みとなっている。

2. 消費・投資などの需要動向

個人消費は、緩やかに持ち直している。

百貨店・スーパー販売(全店ベース)は、全体では10か月ぶりに前年を上回った。

百貨店は、催事による効果に加え、高額品や衣料品に動きがみられたことから、全店ベース、既存店ベースともに3か月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、衣料品や飲食料品に動きがみられたことから、全店ベースでは2か月連続で前年を上回った。なお、既存店ベースでは、10か月連続で前年を下回った。

また、百貨店・スーパー販売額指数(9月速報、季節調整済み)で見ると、全体では前月比+0.5%と2か月連続で上昇した。

コンビニエンスストア販売(全店ベース)は、カウンター商材、中食が引き続き好調であったことから、55か月連続で前年を上回った。

家電大型専門店販売は、白物家電が好調だったことから、3か月連続で前年を上回った。

ドラッグストア販売は、30か月連続で前年を上回った。

ホームセンター販売は、14か月ぶりに前年を上回った。

乗用車販売は、普通車、小型車が3か月連続で前年を下回ったものの、軽自動車は6か月連続で前年を上回ったことから、全体でも2か月連続で前年を上回った。

設備投資は、増加している。

製造業では、生産用機械、窯業・土石製品などで増加する計画となっている。

非製造業では、運輸、卸売などで増加する計画となっている。

なお、管内主要8社の金属工作機械受注(国内向け)は、一般機械工業向けが3か月ぶりに、自動車工業向けが9か月連続で前年を上回ったことから、全体でも2か月連続で前年を上回った。

公共投資は、おおむね横ばいとなっている。

公共工事前払金保証請負金額は、「地方公社」ほかで前年を上回ったものの、「国」、「独立行政法人等」、「県」、「市町村」が前年を下回ったことから、全体でも2か月連続で前年を下回った。

住宅投資は、おおむね横ばいとなっている。

新設住宅着工戸数は、持家が5か月連続で前年を下回ったものの、貸家が2か月ぶりに、分譲が2か月連続で前年を上回ったことから、全体でも2か月ぶりに前年を上回った。

輸出は、持ち直している。

名古屋税関管内の輸出通関額(円ベース・速報)は、8か月連続で前年を上回った。品目別で見ると、「自動車の部分品」、「原動機」、「金属加工機械」などが前年を上回った。

主要地域(国)別で見ると、アジア向け、米国向けが8か月連続で、中国向けが11か月連続で、EU向けが4か月連続で前年を上回った。

雇用は、労働需給が引き締まっている。

新規求人数は、「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」などが前年を上回ったことから、全体でも11か月連続で前年を上回った。

有効求人倍率は、3か月ぶりに上昇した。

完全失業率は、東海では6四半期ぶりに悪化、北陸では2四半期ぶりに改善した。

企業倒産(件数)は、2か月ぶりに前年を上回った。

企業倒産(件数)は、「小売業」、「不動産業」などで前年を下回ったものの、「製造業」、「卸売業」などで前年を上回った。

以上